

科目名	健康科学特殊研究	担当者	イズミ 泉 リュウタロウ 龍太郎	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>1. 医療分野で標準とされる「エビデンス」について、その基本的な考え方と、個々の事例に適用する際の課題について学修することを目的とする。</p> <p>2. 「健康」の基礎となる「生命活動」について、生態系と生命体個体の両方の観点から、「生命とは何か」という問いを考察することを目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 問題発見・解決力：事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。 論理的・批判的思考力：得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。 省察力：謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 医療分野における「エビデンス」が作成されるプロセスとその適用方法を理解できる。 健康科学の基礎となる生命科学について、その研究の基本的な考え方を習得する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに25時間以上、Manaba-Folioへの提出・再提出のやりとりに20時間以上を目安とする。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 レポートの推敲過程において、Manaba-Folioの全受講者用の掲示板機能(「スレッド」)に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 レポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に、自分自身で題材を取り上げ、その題材に関する必要な文献の検索を行い、それに対する考え方をレポートとしてまとめる。疑問が生じた場合は、Manaba-Folioを通して適宜科目担当者に質疑する。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題(1)の草稿は7月末、課題(2)は8月末を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も9月中旬までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材2のレポート課題(1)の草稿は11月中旬、課題(2)は12月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も平成31年1月上旬までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	75%	レポートの内容に関し、取り上げた題材の適切性、考え方の科学性・妥当性、最新の知見の反映、自分自身の専門分野との関連性等を評価する。
	平常評価	25%	レポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。
履修者への要望	<p>1) レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの校正(目次案など)について、メールなどで連絡相談して下さい (izumi.ryuutarou@nihon-u.ac.jp)。</p> <p>2) 題材の選択は自由ですが、発想が面白い、ユニークな題材を歓迎します。</p> <p>3) レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。</p> <p>4) 教材・参考図書を全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索して下さい。</p> <p>5) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 日本医療機能評価機構 教材名： 『医療情報サービス Minds (マインズ)』 http://minds.jcqh.or.jp/s/about_us_overview 厚生労働省の委託の下に、診療ガイドラインの情報を提供している。但し、一部のガイドラインは有料、または作成した学会等への会員登録が必要となる。また必ずしも全てのガイドラインを網羅しているとは限らない。
参考図書	福井 次矢, 山口 直人 監修 『Minds 診療ガイドライン作成の手引き 2014』 (医学書院, 2014年) ISBN 978-4-260-01957-6 3,500円+税
履修上のポイント	医療分野において言われる『エビデンス』がどのようにして検証されるのか、またそのエビデンスに基づいたガイドラインを、個々の事例に適用する際の考え方について学修する。
レポート課題 1	特定の診療ガイドラインを取り上げ、そのガイドラインが作成された目的と経緯、作成時のポイント等をまとめること (注: ガイドライン自体の解説ではない)。ガイドラインとしては、例えば厚生労働省の『健康づくりのための身体活動基準 2013』や、日本看護協会の『夜勤・交代制勤務に関するガイドライン』のようなものでも良い。
レポート課題 2	上記のガイドラインを、個々の事例に当てはめた際の課題を論ずること。異なるガイドライン間での方針の相違を取り上げても良い。該当する事例を思い当たらない場合は、連絡して下さい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 東京大学生命科学教科書編集委員会編 教材名： 『現代生命科学』(羊土社, 2015年) ISBN 978-4-75-812053-1 2,800円+税 生命科学の基礎的な知識に関し、最新の情報を基に簡潔、かつ網羅的に記述された最良のテキスト。より詳しい内容を希望する場合は、『理系総合のための生命科学(第3版, 2013年)』でも可。
参考図書	(1) 池田 隆著『人間自身がすでにひとつの「生態系」』(自由国民社, 2012年) ISBN 978-4-426-11435-0 1,500円+税 (2) 福岡 伸一著『世界は分けてもわからない』(講談社現代新書, 2009年) ISBN 978-4-06-288000-8 780円+税
履修上のポイント	「生命とは何か」という問いに対し、生態系という観点と、生命体個体に関する視点から、その答えにアプローチする方法論を学修する。
レポート課題 1	ヒトも生態系の一部という観点から、共生する微生物(腸内、皮膚、あるいは環境)、または生物の中から一つを取り上げ、健康や疾患との関連性について論じること。
レポート課題 2	ヒトを含めた生命体、あるいは細胞の機能を理解する上で、生命体を、それを構成する臓器・組織、細胞内小器官や生体高分子等の部分・物質レベルに分割して理解しようとする、いわゆる「機械論的な還元主義」に関し、その有用性と限界、及び健康と不健康状態(疾病を含む)との関連性について論じること。合成生物学や人工生命の観点を取り入れても良い。 正解の無い哲学的な課題でもあるが、観念論に終始せず、生命科学の知見を踏まえ、なるべく具体的な事象を取り上げた上で、自分自身の考えを論じて下さい。